

## 「夕張連携プロジェクト」～フィールドワークを実施～

夕張連携プロジェクトに参加する学生5名が、夕張市清水沢の歴史を学ぶフィールドワーク等に参加しました。  
フィールドワーク活動日：令和5年11月3日（土）

### <タイムスケジュール>

午前の部：フィールドワーク【清水沢】

講師：一般社団法人・清水沢プロジェクト 代表理事 佐藤 真奈美 氏

2016年に設立された「一般社団法人清水沢プロジェクト」代表理事の佐藤さんに、活動拠点である清水沢宮前町の旧炭鉱住宅「宮コ23」棟「清水沢コミュニケート」をはじめ、清水沢宮前町やズリ山を案内いただき、様々な取組についてお話をいただきました。住民の方にもご参加いただき清水沢宮前町の歴史についても伺う機会をいただきました。

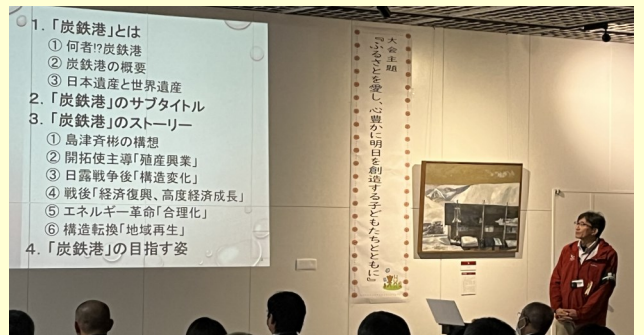


午後の部：夕張石炭博物館「炭鉄港の歩き方」

講師：夕張市石炭博物館 館長 石川 成昭 氏

日本の産業近代化に大きく貢献した「国内石炭」の増産でまちが繁栄し、石油への転換でまちが衰退したエネルギー政策に翻弄された空知管内の象徴的な夕張市。

今回は、夕張市清水沢地区の歴史やズリ山跡地を見学するとともに、石炭を運ぶ鉄道や道路などの建設に従事した四人労働力など、北海道の礎を築いた歴史も振り返りながら、夕張市石炭博物館の館長である石川氏から、「炭鉄港の歩き方」と題し講演をいただきました。人口減少と高齢化が進む『日本の縮図・課題先進地』をどうしたら再生できるのかを学ぶなど、参加学生は独自課題への取組をイメージしながら真剣な表情で、夕張市のまちづくりに取り組んでいる方の話を聞きました。講演後、石川館長のアテンドのもと、炭鉱の歴史について細かく説明をいただき、特別に施設を案内をいただく貴重な機会をいただきました。



## 「夕張市への提言発表会」に参加

夕張連携プロジェクトに参加する三大学の学生が、それぞれが設定したテーマについて、夕張市へ政策提言発表を行いました。※三大学（北海道科学大学、北海道文教大学、札幌大学）

■提言発表日：令和6年5月17日（金） 場所：夕張市役所

13時に開会した「夕張市への提言発表会」、本学学生も含め9名の参加者が、以下テーマに基づき、提言発表を行いました。

テーマ1「炭鉄港PR」、テーマ2「ふるさと納税返礼品」、テーマ3「交流人口の増加」、テーマ4「職員採用」

テーマ3「交流人口の増加」と題し提言発表を行った 中川さん（経済学専攻4年）のコメント

「夕張でフェス」をテーマに提言発表させていただきました。2027年に借金を返し終わる夕張にできることは何かを考え、実際に、夕張市役所の方や、夕張農業協同組合の方へ取材をし、プレゼンテーションを製作しました。夕張をフェスで元気にできればと思っており、これからも夕張を注目していきます。

この度の取組を通し、課題先進地の夕張市の現実に学生が触れ、他大学の学生と意見交換できたことは、大変意義があった取組みとなりました。夕張市への提言についても、実現可能に近い内容もあり、関わった学生にとっても、とてもプラスになる取組みとなりました。また、この度の夕張市における取組をきっかけに連携協定を締結した「北海道科学大学」と「北海道文教大学」とは、今後さらにいろいろな分野で連携活動を継続することができればと考えています。

